

序

平成23年度は当院にとりまして、大きな変動の年となりました。

まず予定されていた通り、平成23年4月1日には市立泉佐野病院改め地方独立行政法人りんくう総合医療センターとして、新たに運営を開始致しました。種々の制度の変化や職員の交代など、戸惑いながらのスタートでありました。

また隣接する大阪府立泉州救命救急センターと当院は、平成25年度に一体化する予定です。それに先立ち救命救急センターの機能拡充のための大幅な改築工事と、当院内のICUや新しくできる病棟の改築工事を9月より半年かけて行いました。救命救急センターの入院機能が無くなった6ヶ月間は、不十分ながら当院内にその機能を置き、可及的に重症患者様の診療にあたりました。しかし工事中は物理的にも診療に限界があり、その間地域の医療機関の方々には大変な御協力をいただき、御礼申し上げます。一方、当院での救急医療を少しでも充実すべく、救命救急センターの医師の協力により、院内に救急科を設立し協働で運営を始めました。

院内では10月より電子カルテの導入を行いました。同時に外来においては各外来ブロックでの分散会計システムに変更し、自動支払機も導入したため、会計待ちの時間が短縮され患者様には好評です。また、11月には念願でありました地域医療支援病院の承認をいただきました。以前より当院では、この広大な泉州地域における地域医療連携の重要性を強く認識し、種々取り組んでまいりました。最近では、多くの病院や診療所の方々のご協力のおかげで、数種類の地域連携パスの導入も円滑に行われています。すでに多数例で運用されており、がんの地域連携パスは大阪府内でも最も進んだ地域と認められています。これも地域医療機関の方々の御協力の賜物と感謝致しております。

一方、9月には職員に肺結核症が発生し、多くの患者様ならびにご家族に大変な御迷惑と御心配をおかけいたしました。関係の方々には、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。数カ月にわたり患者様の検査を行いました。幸いにも二次感染と考えられる例は見られませんでした。今後は職員の検診体制をさらに強化し、より一層感染対策に努めたいと存じます。

当院では一部の診療科の医師不足や看護師不足があり、病院運営は大変厳しいのが現状です。その中で24年度採用の初期研修医は、2年連続でフルマッチとなりました。今後とも若手医師を始めとして、医療人の育成には更に力を入れたいと考えています。

最後に、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

りんくう総合医療センター 病院長

伊豆蔵 正明